

柏市自立支援協議会全体会 部会報告シート

【部会名】 相談支援部会	【部会長】 地域生活相談センター シヤル 関口 篤行
【開催報告】 1 相談支援部会 (1) 第5回：12月16日（金）リモートによる開催 ア 第4回相談支援部会で検討したワーキング課題について意見交換 ・「ニーズの変化（質より量）、サービス提供事業所の質の低下」について、社会や家族形態の変化に福祉サービスがついていけない、客観的評価の機会の必要性、相談支援専門員として他部会へ地域課題を伝える場が必要、研修機会を設けるなどの意見があがった。 ・「相談員だけでなく、地域で支える仕組みづくりの必要性」について、相談員が地域を知る機会の必要、居場所作り、活用できそうな居場所の活用などの意見があがった。 ・全ての課題を相談支援部会だけでは解決が難しいと思われるため、他部会とも意見交換や研修機会を設けていき、連携を図っていく。 2 相談支援連絡会 (1) 第3回：10月21日（金）リモートによる開催 ア 「障害児者の虐待について」 ・相談支援専門員が関係機関と連携を取る際にそれぞれの機関の役割内容を正しく理解し、支援を進めていくためにテーマを設定し実施。千葉県柏児童相談所、柏市こども福祉課こども支援室、柏市障害福祉課権利擁護担当から、事業内容、それぞれの役割、対応方法、虐待の種類、障害分野に関連しての対応（相談支援専門員との連携）等について講義いただいた。 (2) 第4回：12月23日（金）リモートによる開催 ア 「地域課題について～地域づくり～」 ・第1回計画相談実務者ワーキングで出た意見をもとに、第4回相談支援部会、第2回計画相談実務者ワーキングで検討を重ねた内容について、グループワークを実施。①ニーズの変化（質より量）・サービス提供事業所の質の低下【成人】②ニーズの変化（質より量）・サービス提供事業所の質の低下【児童】、③バリアフリーについて、④地域で支える仕組みづくりの必要性、⑤制度関連についての5つのテーマに分けて、地域課題について、地域づくりに向けてどのようなことをすれば課題について改善されるか意見交換を実施。 ・テーマごとにそれぞれの相談員が感じている地域課題や課題改善に向けた多様な意見について、事業所とのやりとりが非常に大事であること、児童分野の制度の活用がうまくいかないことやニーズが多様化していること、関係機関との連携が重要であることなどの意見があがった。様々なところへの働きかけが必要である	

ため、部会でさらに検討し整理していく。

3 計画相談実務者ワーキングチーム

(1) 第2回：11月16日（水）リモートによる開催

ア 相談支援連絡会で取り上げる事例の抽出

- ・事例抽出のために委員で意見交換を実施。様々なケースをそれぞれの相談支援専門員が抱えている中で、一事例に絞って相談支援連絡会で地域課題について考えていくことが困難であり、地域に様々な要素が含まれるため、意見交換に変更し、相談員の考える地域連携や地域づくりはどのようなものか検討することとした。

【全体会に課題提起すべき内容】

1 相談支援部会で検討した課題について

(1) 背景

- ・相談支援部会だけでは解決できない課題として、時代背景に応じてニーズが変化していたり、相談員と事業所がニーズの見極めなどをチームとして行っていく必要もあり、他部会へ地域課題を伝える場が必要。

(2) 部会としての課題認識

- ・相談支援部会として検討すべき事項と分けて、他部会での検討依頼や意見収集を課題解決の足掛かりとし、他部会の連絡会や部会などを活用して意見交換や研修機会を設けていく必要がある。

2 自立支援協議会全体会について

(1) 背景

- ・各部会の検討事項、課題について意見交換の時間が少ない。

(2) 部会としての課題認識

- ・議論の場ではなく、報告の場となっているため、様々な課題に対して柏市全体として検討が必要。

【今後の活動予定】

1 相談支援部会

(1) 第6回：2月17日（金）リモートによる開催

3 計画相談実務者ワーキングチーム

(1) 第3回：2月15日（水）リモートによる開催

<p>【部会名】 くらし部会</p>	<p>【担当】 社会福祉法人 彩会 平山 隆</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 居宅支援連絡会</p> <p>(1) 第2回：11月7日（月）リモートによる開催</p> <p>ア 居宅介護事業所向けアンケート調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も調査依頼をさせてもらったアンケートであるが、回収率が悪かったため再度調査となった。 ・コロナ禍にあたって、通所系事業所やGHには救済措置が取られたが、居宅系事業への救済措置は取られなかった。くらし部会では、コロナ禍前の平成30年とコロナ禍以降の令和3年での収支の差を比較し、収入の変化を把握し、自立支援協議会全体会へ政策提言をしていきたい。 <p>イ 高齢化に伴う医療との連携について一意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引が必要な利用者の方がいる場合には、積極的に資格を取っていきながら、1号研修を待たずにやれることをやっいてこうと考えている。喀痰吸引を難しく考えすぎずに支援できる体制をどう作ってイけるか。 ・介護保険では、障害福祉のような手厚いサービスはできない。利用者の方が、訪問介護と居宅介護の違いを分かっていないことも多く、また理解してもらうことも難しい。 ・医療との連携の仕方が家庭によって異なる。医療連携といっても事業所、利用者の方それぞれによって大きな差がある。記録の重要性も非常に大きいため、本来は実地指導も必要なのではないかと考えている。 <p>ウ BCP作成について一現状報告・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCPの内容は、生活介護やGH向けではないかと感じている。必要性の有無等、書き方が難しい。 ・在宅支援の場合、省略できる箇所が多くある。作成して良かった点は、柏市が何を災害とし、何を予想しているのかを理解することができた点、事務所を構えている場所の災害予測。権利の譲渡、優先となる業務、企業の責任も勉強になった。職員の交通手段も確認することができた。 ・更新することが非常に難しい。虐待防止も義務化され、会議も実施し、記録の作成等、求められる物が増えたと実感している。 ・事業所内や他事業所を含めた支援を考えながら作成できたら良い。横の繋がりの中で、お互いに直接情報を交換し合うことも必要。 <p>2 グループホーム等連絡会</p> <p>(1) 第2回：11月16日（水）リモートによる開催</p> <p>ア 医療観察法対象者のGH受け入れ促進の為の意見交換</p> <p>「心神喪失者等医療観察制度の概要－地域社会における処遇での支援等について</p>	

一」千葉保護観察所 社会復帰調整官 坂下氏より、医療観察法についての説明を頂き、医療観察法対象者の地域移行について意見交換を行った。

3 くらし部会

(1) くらし部会：1月16日（月） リモート及び対面による開催

ア 日中サービス支援型グループホーム評価チームについて

- ・対象事業所それぞれの各項目について、評価できる点、課題点、2事業所共通意見をあげ、部会委員に意見を求めた。

〈開催しての課題・意見〉

- ・開催方法、委員構成についてどう検討するか。
- ・利用者の生活の事例を挙げてほしい。
- ・事業所の見学もせず、紙面と評価の場だけで判断するのは難しい。パンフレットなどがあると分かりやすい。
- ・外部の繋がりをより広げてほしい。
- ・職員の支援に差があるのが気になった。

イ アンケート結果について意見交換

〈居宅事業所向けアンケートについて意見交換〉

- ・各事業所の平成30年度の収支と令和3年度の収支の差については、増額した事業所もあるが、新規開設事業所も含まれた回答になる。
- ・コロナ禍になって収支が減額になった事業は移動支援事業と居宅介護事業が多い。特に移動支援は公共交通機関の利用がある為、利用者からのキャンセルや、公共交通機関利用への制限を設けた事業所も多かった。
- ・ヘルパーが感染した関係でヘルパー派遣ができなかった、ヘルパーの高齢化などの課題があげられた。
- ・ヘルパーの待遇や勤務状況を見ると、これで生活できる環境状況ではないと感じる。このままでは障害のある方の在宅生活を支えるヘルパーの仕事を担う人が減少してしまうのでは。

〈グループホーム事業所向けアンケートについて〉

- ・柏市及び近隣市のグループホームの拡大はされてきているが、提供サービスがマッチしているか、質の向上、支援者支援等の点から、グループホーム事業所の実態調査を行った。
- ・強度行動障害のある方を受け入れるための環境設定をすることが難しい。
- ・医療的ケアの方の受け入れのためには、看護師の常駐など体制の確保が難しい。現場や現状をもっと知ることができる機会があればいいという意見もあった。
- ・グループホーム等支援ワーカーについて期待することとして、出前講座や勉強会の開催、他事業者との連携の強化、新規参入事業者への助言や働きかけ、本人とグループホームのマッチングなどがあげられた。
- ・グループホーム向けアンケートに関しては、令和5年度の取り組みとして、グル

ープホーム連絡会の中でも検討していく。

ウ 来年度に向けて

- ・アンケートの結果を整理しながら、研修含め議題を整理していく。
- ・来年度、生活介護や地域活動支援センターの意見の吸い上げとして、暮らし部会委員に参加いただき、課題を共有していく。

【全体会に課題提起すべき内容】

1 コロナ禍における、居宅介護事業所に向けた金銭的補償について

(1) 背景

- ・感染症拡大における、利用者からのキャンセルが増加している。
- ・感染したことによる、ヘルパー派遣ができない場合の給料保障を事業所が独自で行っている。
- ・通所事業所におけるコロナ関連によるキャンセルへの救済措置が、居宅介護事業にはない。

(2) 部会としての課題認識

- ・コロナ禍における、居宅介護事業所への金銭的補償が必要。

2 グループホーム事業所における困りごとについて

(1) 背景

- ・強度行動障害のある方、医療的ケアが必要な方等の受け入れが困難。
- ・グループホーム等支援ワーカーを設置することで、出前講座や本人とのマッチングなどが期待されている。

(2) 部会としての課題認識

- ・グループホーム事業所が抱える問題点の解決方法として、グループホーム等支援ワーカーの設置を進めていきたい。

【今後の活動予定】

今年度中の部会、連絡会は全て終了。

<p>【部会名】 はたらく部会</p>	<p>【担当】 ビック・ハート柏 八木原 直彦</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 はたらく部会</p> <p>(1) 第3回：1月26日（木）WEBと対面による開催</p> <p>○部会長に関して</p> <p>かるのこ 室山氏の異動に伴い、ビック・ハート柏 八木原氏が就任。 ※はたらく部会終了後に記載。</p> <p>2 一般就労連絡会</p> <p>(1) 第3回：1月11日（水）WEBによる開催</p> <p>○今年度のまとめ</p> <p>ア 企業向け周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月18日（金）「キックオフミーティング～共に踏み出す障害者雇用の導入から採用まで～」の実施報告。参加企業は5社。チャレンジドオフィスかしわの見学、障害者雇用の概要に関する講演及び個別相談会を実施。市内5か所の就労移行支援事業所と松戸公共職業安定所と連携・協力して開催。 ・第2回は令和5年2月7日（火）開催予定。内容は、障害者雇用の進め方に関する講演と個別相談会が中心。新たに柏商工会議所が後援に加わり、周知の面で協力あり。 <p>イ 支援者のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月27日（金）「第2回なんでも座談会」を開催予定。前回同様にテーマは決めず、日々の業務や疑問に思っていること等について、意見交換予定。 <p>ウ ジョブコーチの周知と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のジョブコーチ派遣事業の利用状況について報告。今年度は4名利用。うち1名は離職、3名は利用中。今年度の特徴としては、全員が精神障害者保健福祉手帳を所持。 ・来年度からジョブコーチ派遣事業の支援内容等について改正予定。主な改正点としてジョブコーチによる事前支援と支援計画の作成、企業向けに事業説明用のチラシを作成し、事業の周知を図ることで障害者の職場定着支援の一助とする。 <p>○来年度に向けてのグループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「柏市の就労支援体制の充実」について、柏市で不足している就労支援や地域資源について意見交換。各グループより、「余暇支援の充実（休日の過ごし方）」、「市内地域資源の情報共有の方法（サイト等）」、「就労継続支援B型事業所から就労移行支援事業所へのスムーズな移行の仕組み」、「企業実習先の開拓」、「定着支援終了後に中心となる支援機関」、「コミュニティに関すること」等について意見があった。 	

3 福祉的就労連絡会

(1) 第3回：1月11日（水）WEBによる開催

○今年度のまとめ

ア 農福連携の取組みについて

- ・11月7日「千葉県農福連携現場見学会（柏市）」の実施報告。参加者40名。前半はハウス内の清掃作業、後半は意見交換会を実施。1月14日&15日のノウフクフェスタ in 上野の開催告知。
- ・農福に関心のある事業所があれば、次年度以降JAちば東葛が各事業所へ訪問し、個別相談が可能との話があった。

イ 合同販売会の企画について

- ・道の駅しょうなん（10月7日）、セブンパークアリオ柏（12月9日）の販売会総括とアンケート結果、豊四季台活動館の販売会について報告があった。

ウ 柏市版事業所ハンドブックの作成（情報発信）について

- ・基本情報シート作成の進捗報告。シートのデザイン、内容に関して委員より意見をいただいた。主に追加する内容としては交通手段や送迎の有無など。事業所の特集ページに関しては記載する情報を整理する方向で調整を進める。

○来年度に向けて意見交換

- ・「今後の販売会の在り方」「事業所からの情報発信」について、意見交換を実施。情報発信として、HP開設やチラシ配布、挨拶まわりを行う事業所や、SNSの活用やオンラインショップを開設した事業所があった。販売会については、集客が見込める土日祝の開催は参加が難しいとの声もあり、各事業所の事情によって大きく差があるのが現状。
- ・障害者就労事業振興センターより、工賃向上には継続的に取り組んでいる作業の単価見直しが必要との話があった。また、他市ではシルバー人材で受注不可能な業務が増え、障害分野への仕事依頼は増加傾向との話があった。

【全体会に課題提起すべき内容】

※はたらく部会終了後に追記。

【今後の活動予定】

1 一般就労連絡会

- (1) 第2回なんでも座談会：令和5年1月27日（金）
- (2) 第2回キックオフミーティング：令和5年2月7日（火）

<p>【部会名】 こども部会</p>	<p>【担当】社会福祉法人 桐友学園 新福 麻由美</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 こども部会</p> <p>(1) 第3回：1月23日（月）対面とZoom併用による開催 <u>※部会開催後に差し替え</u></p> <p>2 事業担当者会議</p> <p>(1) 第2回：11月30日（水）Zoomによる開催</p> <p>ア 虐待防止委員会設置状況アンケート調査結果報告。</p> <p>イ 事業所運営での課題・困り感について意見交換。主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポート調査票の配布方法と記入について、事業所として課題を感じている。 ・計画相談がついておらず、セルフプラン対応の方への相談対応の困難さがある。 ・セルフプラン対応の方へ、委託相談等の地域の相談先の周知が必要ではないか。 ・送迎車からの降ろし忘れ防止への対応策について、事業所間で意見を共有。 <p>【全体会に課題提起すべき内容】 <u>※部会開催後に差し替え</u></p>	
<p>【今後の活動予定】</p> <p>1 児童発達支援連絡会</p> <p>第2回：2月中旬開催 ※職員研修の形で、動画配信にて開催予定。</p> <p>その他部会、連絡会等は今年度の活動は終了。</p>	

<p>【部会名】 柏市障害者差別解消支援地域協議会 柏市権利擁護ネットワーク会議における 障害者に関する専門部会</p>	<p>【担当】 柏市障害福祉課 田中</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 柏市障害者差別解消支援地域協議会及び柏市権利擁護ネットワーク会議における 障害者に関する専門部会</p> <p>(1) 第3回：1月13日（金）対面及びWEBによる開催</p> <p>ア 第1部</p> <p>(ア) 障害者虐待・差別相談の受付状況等について 事務局(障害福祉課)より、12月時点の虐待通報・届出の状況、差別相談の受付状況、成年後見制度利用支援事業について報告し、協議した。</p> <p>(イ) 柏市障害者権利擁護研修について 事務局より、第2回研修のアンケート集計結果、第3回研修の内容について報告し、協議した。</p> <p>(ウ) 障害者差別解消に向けた取組みについて 事務局より、次期ノーマライゼーションかしわプラン策定に向けた市民アンケートの結果（権利擁護に関する部分）について概要を報告し、障害者差別解消に向けた取組について協議した。</p> <p>イ 第2部</p> <p>(ア) 令和4年度障害者虐待通報の傾向 事務局より、令和4年度の障害者虐待通報・届出の傾向について、第1部(ア)の内容をより詳しく説明し、協議した。</p> <p>(イ) 事例紹介 事務局より、養護者虐待通報の対応について事例を報告し、協議した。</p>	
<p>【今後の活動予定】</p> <p>1 柏市障害者権利擁護研修会 第3回：2月24日（金）14時～16時 「精神科における権利擁護」WEBによる開催予定 講師 青山 浩平氏（NHK ETV特集チーフディレクター）</p>	

<p>【部会名】 柏市障害児等医療的ケア支援連絡会</p>	<p>【担当】 社会福祉法人ぶるーむ 後藤 慎也</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 コアメンバー会議</p> <p>(1) 第2回：11月7日（木）ラコルタ柏 福社会議室にて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会の取組ロードマップの作成について 使用するフォーマットの選定 ⇒現行のノーマライゼーションかしわプランの各柱に合わせて課題を整理し、それぞれの課題に対してこれまでの取組、今後の短期目標及び長期目標を設定する。 各コアメンバーから課題出し、次回コアメンバー会議にて収集した課題を各柱ごとに整理することとした。 <p>(2) 第3回：12月19日（月）Zoomにて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロードマップ作成に向けた課題整理 各コアメンバーから上がった課題を、ノーマライゼーションかしわプランの各柱に対応する形に整理し、ワークシートを作成した。 成人・児童それぞれのワーキングにてワークシートの内容について意見交換した上で、次回コアメンバー会議にて短期・長期目標の案を検討する。 	
<p>【今後の活用予定】</p> <p>1 コアメンバー会議</p> <p>(1) 第4回：令和5年2月20日（月） ロードマップ作成について</p> <p>2 全体会</p> <p>(1) 第2回：令和5年3月16日（木）</p>	

<p>【部会名】 柏市精神障害にも対応した地域包括 ケアシステム構築推進事業</p>	<p>【担当】 たんぽぽセンター 森根</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 コア会議</p> <p>(1) 第4回：10月26日（水）対面による開催</p> <p>(2) 第5回：12月21日（水）対面による開催</p> <p>ア 代表者会議の開催日程・開催方法等の検討</p> <p>イ ピアサポーターへの講師謝礼の支払いについて検討</p> <p>ウ 第1回、第2回実務者会議を受けて今年度の各グループの方向性と取組の共有</p> <p>①第1グループ（普及啓発グループ）</p> <p>＜動画班＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たんぽぽセンターのホームページの一部に動画を組み込む。 ・ホームページに、当事業の詳細も掲載を検討 <p>＜広告班＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名刺サイズの広告を作成中。 ・名刺には「もしもし、あのね」という文言を盛り込み、相談しやすいように工夫。 ・QRコードを2つ掲載して、ホームページと動画にリンクできるようにする。 ・障害者相談支援事業の委託先の情報も掲載するが、今後了解が必要。 <p>②第2グループ（医療グループ）</p> <p>＜方向性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のゴールとしては、支援者向け普及の一環として、先ずは、実務者委員への普及に努める。今後、そのための資料作成に取り組み、年度末の実務者会議で委員へ説明する。 ・代表者会議では、自己紹介シート・SOSプラン作成事例の概要、メリット、作成後の変化、成功事例を含めた評価について報告する。 <p>③第3グループ（障害福祉・介護グループ）</p> <p>＜研修会＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者間での連携・他機関を知ることをテーマに研修会を実施する。（後述） <p>＜広報紙（ツール）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害、介護分野における連携促進の為のツールを広報紙という形式で作成にとりかかる。 <p>＜事例検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害、介護分野における連携のための事例検討の実施。今後地域に向けて展開できないか検討する。 <p>エ 次年度の取組について意見交換</p> <p>＜方向性＞</p> <p>これまでの取組を継続と新たな課題へ取り組む。</p>	

2 実務者会議

(1) 第4回：11月30日（水）対面による開催

ア ピアサポーター活動報告

①保健所主催の「こころの健康出前講座」へ参加。

日時：10月17日（月）10：00～12：00

場所：いきいきプラザ

内容：当事者講師として、ピアサポーター大喜田氏とともに5名参加。地域との繋がりや当事者本人からのメッセージを届ける。

②社会福祉協議会主催の「精神保健ボランティア養成講座」への参加

日時：11月3日（月）13：00～15：00

場所：ラコルタ柏2階

内容：当事者代表として5名が参加。利用の様子や当事者本人からのメッセージを伝える。

日時：令和5年2月9日（木）14：00～16：00

場所：沼南庁舎（仮）

イ グループワーク

各グループに分かれ活動を実施。 ※詳細は上記コア会議内容を参照

【その他】

1 研修会「地域の福祉力向上研修」の開催

テーマ：「地域の仲間（支援機関）を知ろう！」～柏市重層的支援体制整備事業～

日時：令和4年12月8日（木）13：00～15：00

方法：Zoom

参加者：69名（介護35名 医療9名 障害18名 行政4名 講師3名）

講師：①柏市保健福祉部福祉政策課 主査 泉田 康彦 氏

②柏市地域生活支援センターあいネット 所長 松島 浩一郎 氏

③柏市社会福祉協議会 いきいきセンター担当 佐藤 美歌 氏

【今後の活動予定】

1 コア会議

(1) 第6回：1月18日（水）対面による開催

(2) 第7回：2月22日（水）対面による開催

2 実務者部会

(1) 第5回：1月25日（水）対面による開催

3 代表者会議

(1) 日時：2月9日（木）14：00～16：00

場所：沼南庁舎

<p>【部会名】 柏市地域生活支援拠点運営協議会</p>	<p>【担当】 障害福祉課 萩原・小野</p>
<p>【開催報告】</p> <p>1 柏市地域生活支援拠点運営協議会</p> <p>(1) 第2回：令和5年1月18日（水）対面及びZ o o m併用による開催</p> <p>ア 令和4年度現在の各地域生活支援拠点活動報告について 各拠点の代表者から現在までの活動報告を行い、意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は減少傾向にあるという事業所がある反面、北部地区への転入者の影響もあり、シャルでは新規相談が増え、全体の相談件数も増加しているとの事。また地域の相談支援事業所が閉鎖若しくは相談員が辞めるということで、計画相談を受け持ったり、振り分けたりするといった部分と拠点の立ち位置との両立に難しさを感じているとの事。 ・委託以外にも、地域の相談支援事業所が他事業所から事業所閉鎖を理由に、相談の引継ぎの依頼を受けるといった状況にあるという意見もあった。 ・柏市内の相談支援専門員の不足により、セルフプランが増えている事。 <p>イ 各地域生活支援拠点への5つの拠点機能の現状調査結果報告をもとに意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急の相談は増加傾向。生活保護ケースや警察からの相談も入る。 ・相談者がたらい回しにならないために、初期のインテークの重要性やしかるべき場所へ繋ぐ方法の再確認が必要。 ・相談員一人一人の支援の質と量も非常に求められている。 ・体験利用についてはグループホームではなく短期入所でも行っている。 ・拠点機能の体験の場の提供について、くらし部会の市内グループホームへの調査で、概ね地域のグループホームでは「親亡き後」を見据えた体験利用は出来ていることが分かった。そのため、地域のグループホーム体験と拠点の体験の役割を分けた方が良いのではないか。 ・拠点での緊急受け入れで難しいと思われるケースでは、触法ケースや覚醒剤などの薬物ケースなどが挙げられた。 ・市内の相談支援機関について、24時間対応は拠点くらいのため、もっとアピールしても良いのではないか。 <p>ウ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉課窓口对生活支援課と同様に案内人を設置してほしい ・相談員が計画などを持ってきた際は別に対応してほしい <p>【全体会に課題提起すべき内容】</p> <p>1 市内の計画相談が作成できる事業所及び相談支援専門員の不足について 各部会でも課題として挙がっている案件であり、柏市全体の課題と認識しているため検討が必要ではないか。</p>	

【今後の開催予定】

- 1 柏市地域生活支援拠点運営協議会
令和4年度は2回の開催で終了。